

教区シノダスの実施において踏まえておきたい事柄

1. 第Ⅱバチカン公会議

1963～1965 開催

①開かれた教会 ②交わりの教会 ③神の民

公会議前	公会議後
1. 秘跡中心: ・教会とは秘跡の場 ・救いは秘跡を通して ・司祭の役割は秘跡に あずからせること	1. 奉仕中心: ・教会は世に仕える所 ・秘跡は一層大事 ・世の福音化の推進役
2. 司祭中心の教会	2. 信徒中心の教会
3. 個人としての救い	3. 共同体としての救い
4. 聖体と信心中心	4. 聖体とみことば中心

2. 宣教観の変革

●従来の宣教観
「福音宣教とは、キリストを知らない人々に教え、説教し、カトリック要理を説き、洗礼その他の秘跡を授けることと定義されていました。」(教皇パウロ六世・使徒的勧告「福音宣教」17項)

●現代の宣教観:福音化
現代の「教会にとって福音宣教とは、ただ単に宣教の地理的領域を拡大して、より多くの人々に布教することだけではなく、神のみ言葉と救いのご計画にそむく人間の判断基準、価値観、関心のまと、思想傾向、観念の源、生活様式などに福音の力によって影響を及ぼし、それらをいわば転倒させることでもあります。」(同 19 項) (福音化された共同体→福音化する共同体)

3. アジアの教会の動き

1990年代アジアの教会のあり方:(1990 年第5回FABC総会で決定)

1. 交わりによる共同体
2. 参加する教会
3. 復活した主を証する教会
4. 預言する教会

具体化→AsIPAプログラム開発(1993)
日本は何故取り組まないのか?
→アジアシノダス(1998)で提示、教皇の承認を得る
使徒的勧告「アジアにおける教会」1999 年発行

4. 日本の教会の動き

1981:教皇ヨハネ・パウロⅡ 世来日
1984:日本の教会の基本方針と優先課題(司教団)
1987:ナイスー1:開かれた教会づくり
問題点:①信仰と生活の遊離
②教会と社会の遊離
→司教団声明:ともによるこびをもって
1993:ナイスー2:家庭の現実から福音宣教のあり方を探る
1999:西日本宣教司祭大会
「新しい福音宣教—第三の千年期に向けて」

6. カトリック教会の現状

6.1 浮かび上がった教会の現実

1. 極端な教会離れ
2. 信徒数の減少 (宣教が進まない)
3. 信仰のセンスの欠如の深刻化

6.2 その原因は

1. 世俗化
2. 経済第一主義
3. 情報化(インターネット)
4. 成人信徒の信仰における未成熟 (福音化されているか)

6.3 これまでの司牧活動で不足してきたもの

1. 聖書を読まない (マイバイブルなし)
→霊的旅路の糧の栄養失調
2. 大人の信仰養成の不足 (これまでは希望者のみが受講)
3. 小共同体活動(班制度)の衰退
実施している所も連絡と行事の相談のみ

7. 最近のバチカンの動き

バチカンの新しい組織(2010 年)
新福音化推進評議会
(福音宣教省→従来の福音宣教の分野)
各国に新福音化委員会設立を指示→
1. 日本は 2013 年設立
2. 2017「新福音化の集い」実施

第13回シノダス(2012 年)→
「キリスト教信仰を伝えるための新しい福音宣教」
(1)新福音化:新分野
(2)再福音化:既受洗者
使徒的勧告「福音の喜び」
フランシスコ教皇 2013.11.23

5. 鹿児島教区の動き

1. 1969:教区司牧評議会発足
2. 1970:クルシリオ開催
3. 1972:カトリック研修センター設立
キリスト共同体練成会開催
4. 1973:聖書に親しむ運動開始
5. 1976:教区財政正常化計画検討
6. 1982:小教区・教区司牧評議会の制度化
7. 1982:班制度スタート
8. 1984:信者倍増 10 力年計画(SBU)
9. 1985:宣教奉仕者養成コース開始
10. 1986:班長研修会開催
11. 1991:教区ビジョン制定(5 つの柱)
12. 2001:鹿児島地区評議会開催
13. 2003:信徒のための信仰生活指針

年	信徒数 (人)
1955	3933
1965	8558
1975	8656
1985	10160
1995	9016
2005	9285
2015	8971
2016	8927
2017	8813

8. 教区シノダスの実りを目指して

中野司教の司牧指針
1. 教会の三つの柱(集まり、交わり、派遣)を生きる
2. 今回のシノダスの目的
「宣教司牧の基本理念とその方向性を確定する」

スケジュール
1. アンケート:9 月 15 日締め切り
2. 会議資料の作成
3. 会議:10 月 13～14 日
4. 司教の司牧指針の発表:年頭教書

1. どのような教区作りを目指すのか
2. 具体的な重点実施項目は何か
3. 具体化するための実行計画策定と実施策は

留意点
1. どのような教区作りを目指すのか
2. 具体的な重点実施項目は何か
3. 具体化するための実行計画と実施
4. 大会で終わるのでなくスタート(これまでの反省)
5. 実施は、教区でなく小教区や各団体